

台湾教育通信

第20/21回 台湾：有名大学視察研修、過去最高の計256名が参加

年に3回、過去に既に19回実施している当センター主催の現地視察研修ですが、第20回目となる今回は、高校3年生限定で募集をかけたにも関わらず短期間で予約が殺到したため、急遽追加募集をして第21回も同時期に実施することになりました。冬ということもあり北部より温暖な中南部を中心に、初めて4日間連続で12月26日から12月28日にかけて、合計18大学を見学した今回の視察。第20回は難関国立・私立大学を目指すAコースと中堅私立大学を目指すBコースに分かれてそれぞれ異なる大学を見学し、第21回は全員で同じ大学を見学するという日程が組まれました。いずれのコースも定員をオーバーし、総勢256名が参加する、過去最大規模の大学視察研修となりました。

第20回のAコースでは、初日に過去に多くの卒業生を送り出している東海大学を訪問。現在、東海大学で大学生活を送っている先輩が数名出てきて話をしてくれたことが、特に後輩達の印象に残ったようです。Bコース初日に訪問した明道大学では、台湾人大学生がウェルカムダンスを披露してくれました。参加した生徒達は、先生と学生の距離が近いことに感動したようで、これは国立大学ではあまり見られない特徴でもあります。

第21回の視察では、初日に当センター初めての訪問となる国立彰化師範大学と大葉大学を訪問。彰化師範大学と当センターは昨年準指定校の協定を結び、当センターの推薦で初年度の学費が免除されることも決まっています。今回は初めての訪問ということもあり、学長自らが挨拶と学校紹介をしてくださいました。訪問した日は台中では珍しい雨天の中、キャンパスを見て回るなど充実した見学となりました。大葉大学は彰化県郊外に位置していますが、ここ数年で急激に国際化が進み、英語教育に力を入れていることを実感し、学生達にも好評だったようです。

ほとんどの大学では、当センターの卒業生が出てきて後輩たちに向けて自分の体験談を話してくれます。全般的には充実した大学生活を送っているようですが、よく耳にするのが「いくら頑張っても語学力は台湾人に追いつかない。予備校にいる間しか出来ない中国語学習はしっかりしておいた方が良い。」や「思ったよりも英語に苦戦している。」という言葉です。まだ日本で中国語を学んでいる段階では実感できないかもしれませんが、留学した後の苦勞を減らすためにも、先取りして頑張ることが自分の為になるのは言うまでもありません。

今回、第21回の視察には東洋経済新報社編集局、週刊東洋経済編集部編集委員兼国際業務室長の福田恵介氏が取材に参加されました。台湾留学という進路は年々注目されつつあり、当センターの推薦で進学する日本人学生も急激に増えてきています。当サポートセンターも既に設立6周年を迎え、台湾で学位を取得し、社会人となった卒業生も出てきました。卒業生の活躍も楽しみに、台湾留学という選択肢がますます広がっていくことを期待しています。



▲ 文藻外語大学で中国語の発表をする予備校生



▲ 国立嘉義大学に在籍する先輩達の体験談



▲ 国立彰化師範大学での調印式（準指定校推薦）



▲ 国立高雄第一科技大学での全体集合写真



▲ 逢甲大学の副学長によるご挨拶及び大学概要の説明